

ダイヤモンド磨きは授業でどのように行われているか？

－第73回学校づくりフォーラムのテーマ－

「キミたちはダイヤモンドだ！」「ダイヤモンドを磨くのがこの黎明高校だ！」と校長先生は言っている…

実際、生徒会活動やボランティア、部活動や学園祭などで輝く生徒（＝ダイヤモンドを磨いた生徒）は多数いたし今も現にいる。では一日の大半を過ごす授業で私たちダイヤモンドは磨かれているのか？ダイヤモンド磨きがすすむ授業はどんな授業か、逆に進まない授業はどんな問題があるのか。今回のフォーラムでは授業を受ける側の私たちの思いを出しあうことで、“ダイヤモンド磨きがすすむ授業づくり”について先生と一緒に考えたいと思います。

————— 学校づくりフォーラム事務局長 伊藤雄太（全日3年）

伊藤君の明確なテーマ説明によって始まったフォーラムで感じたことがあります。それは、フォーラムが始まった頃、毎回のように「声が小さい！もっとはっきり話さない！」と生徒達を叱咤激励されていた加賀区長さんに今の生徒達の姿を見てもらいたい、ということです。司会に指名された生徒だけでなく、自分から挙手して発言する生徒もたくさんいて感動しました。

<授業で良かったと思うこと>

- ・探究基礎では社会に出て必要な力がわかる。
- ・看護の専門科目は心配だったが、こまかいところまで教えてくれる。
- ・探究基礎で大人にインタビューができるのが良い。
- ・返されたテスト用紙に○×だけでなく、先生のコメントが書いてあって嬉しかった。
- ・先生が「ナベポ」タイムでポイントをまとめてくれるのでわかりやすい。
- ・息子は希望補習を部活の関係で受けられなくなりそうだったが、先生が部活後にしてい た だいて感謝している。（お母さんより）
- ・3年生になってグレード別の授業がなくなって不安だったが先生が補習をしてくれる。
- ・課題研究のレポートは嫌だったが、みんなに分かってもらえた時は達成感をもてた。

興味があることは書ける。

中学校までとは違って、先生方のこまやかな配慮やわかりやすい授業で苦手な教科や分野が好きになったり、できるようになったという発言が多く出されました。あるお母さんは「息子が授業中に手を挙げるなんて、中学の時には考えられなかった。」との感想も出されました。先生方と生徒の努力によって「学びの概念砕き」が日常的に起こっています。

<授業で改善すべきと思うこと>

- ・板書がない先生がいる。
- ・声が小さくて聞こえない。
- ・質問しても答えしか言わない先生がいる。教えるのではなく伝えているだけ。
- ・いろいろな競技ができる授業がほしい。

（裏面に続く）

「教えるのではなく伝えているだけ。」この言葉を聞いた時、びっくりしました。生徒の学習要求は授業で先生が「教える」ことの意味をとらえ直す段階にまできているのだと感じました。学校づくりフォーラムでは、これまでも何回か授業をテーマにしたことがありましたが、今回のようにかなり具体的に先生達の授業について話されたのは初めてではないかと思います。それだけ本校の授業改善が進んできて生徒の学習要求が高くなってきていると思うと同時に、今回出された改善要求に応えていく努力が求められているのだとも思いました。

サマセミにお薦めする特別講師

異文化理解と東アジアの平和実現（7月20日・4限）



北島義信（四日市大学名誉教授）

東アジアの土着文化は多様で魅力的です。その多様性の中にある共通項を相互に学びあうことが平和実現の基礎となります。本講座では、韓国の民話や台湾映画『セーディク・バレ』を通して文化の果たす役割を考えたい。

＜推薦人より＞アフリカ文学やイスラム世界にも深い理解を持つ博学の師。分かりやすい話方は三重県富田にある正泉寺住職としての説話で鍛えたものでしょう。



宮沢賢治の童話を読む（7月20日・4限）

藤原和好（三重大大学名誉教授）

宮沢賢治の童話は、「風の又三郎」「銀河鉄道の夜」など、いずれも読む者の心を引きつけますが、何を言いたいのかさっぱり分からないという人が多いようです。賢治は何を描きたかったのでしょうか。今年は「なめとこ山の熊」を通して考えます。

＜推薦人より＞黎明高校の新校歌作詞者。三重大赴任以来30余年、しらふの時も酔った時も色々と学ばせてもらった先輩。「深い思想を分かりやすく書く藤原先生を見習いなさい！」とは、私の原稿を批評する妻の口癖。

特別講師ではありませんが、私も仲間とともに「フレネ教育をとおして日本の学校を考える」という講座を7月20日2限目に開講します。